

### 3. 道府県婦人防火クラブ連絡協議会会長だより



25年目の「やらまいか」

静岡県女性防火クラブ連絡協議会会長 鈴木 政子

草木の緑が日増しに色濃くなっていくこの時期、私たちの町浜松は、勇壮な凧揚げと豪華絢爛な御殿屋台が5月3～5日の市中を彩る「浜松まつり」の到来を切望する想いで、昼夜を問わず活気に満ち溢れています。

また当地は、楽器、オートバイ等をはじめとする多種の産業で世界的な起業家を数多く輩出した地でもあり、その精神は「やらまいか精神」と呼ばれ、広く市民に浸透しています。

東海地震の発生が危惧されはじめて間もなく、この「やらまいか精神」に後押しされ、家庭の主婦に何ができるかを模索しながら発足した地域の婦人防災クラブも、今年で設立25年目を迎えます。目前の課題をひとつずつ解決しながら地域クラブを継続し、今では静岡県女性防火クラブ連絡協議会会長という職に就かせていただいているのも、周囲の皆様の暖かいご支援の賜物であり、また、期待の大きさに身の引き締まる想いです。

今年度も、静岡県女性防火クラブ連絡協議会では県民が一丸となって取り組んでいる東海地震への対策について、行政機関との効果的な役割分担により、万全の体制を整えていきたいと思えます。

また、浜松地区婦人防災クラブ連合会では、市民の防火防災意識の醸成とクラブ員の救急技術向上等に努め、さらなる活性化のため、積極的に活動していきたいと思えます。

そして設立25年目の記念として、各種団体の協力を得て、音楽を通じた広報活動を大規模に展開したいと意気込んでいます。

具体的には、平成15年度に実施した「婦人防火クラブ員救急講習会」において、財団法人日本防火協会から受領した「心肺蘇生人体モデル」を有効に活用し、私たちが学んだことをクラブ員以外の方にも広く伝えていけるような活動ができればと考えています。

こうした活動を通じて、東海地震も万全の体制で迎えることができるよう、まい進していきます。

(消防庁機関紙「消防防災」2004-8・春季号)より転載)